

# 日本中国語学会々報 2002年11月

## ごあいさつ

2002年度の大会は、金沢大学のご尽力により、初日が金沢エクセルホテル東急、2日目が金沢大学角間キャンパスにおいて開催されました。本学会が学術団体として登録される中、大会においても様々な新しい試みが行われました。国内外に開かれた学会としての着実な歩みを実感できる大会でありました。

会員数が1200名に近づき、学術団体登録申請に伴う作業及び各種学術関係委員就任の要請・説明会の参加、学術定期刊行物出版助成の申請準備など学会本部のなすべきことが急速に増大しております。事務システム・編集作業のさらなる整備・マニュアル化の推進、あるいは大幅な業務の外部委託などを視野に入れた対応が欠かせない状況になっております。側聞するところでは、この規模の学会運営が財政的・事務的にも一番大変だとのこと。会員各位におかれましても原稿の投稿・住所変更届け・会費の納入などの連絡など迅速かつ正確を期していただき事務作業の軽減・経費の節減にご協力いただきますように改めてお願い申し上げます。

大学評価等におきましても研究者のレフェリー付き雑誌への論文掲載数が重要な要素となっております。本学会誌の存在意義もそれにつれより大きなものになっており、会員各位の研究成果発表の場を確保する意味でも学会誌の年2回発行が切望されるところであります。また、科学研究補助金の申請区分が中国語学・文学から言語学へと変更されたことも見逃すことはできません。中国語学研究者の評価が言語学の一領域として行なわれるという傾向が顕著になってきたと申せるでしょう。中国語研究が仲間同士の議論に終始するのではなく、他の隣接領域の研究者を説得しうるものでなければ正当な評価は得られない時代に入ったと言わざるを得ません。

会員諸氏のさらなるご奮闘とご支援・ご援助を引き続きお願いするものであります。

2002年11月10日

日本中国語学会理事長 中川 正之

## ■ 2002年度理事会・総会報告

(10月26日金沢エクセルホテル東急、10月27日金沢大学)

### 報告事項

#### 1. 会員動向

(2002年10月20日現在)

総会員数1,174名、名誉会員25名、顧問4名、賛助会員19社。

(2001年10月20日以降2002年10月20日現在)

新入会員63名、退会者17名、内規に基づく除籍者20名、ご逝去3名。

#### 2. 『中国語学』249号、2002年10月26日発行、発行部数1,500部。

2002年度版『会員名簿』2002年10月26日発行、発行部数1,300部。

3. 本学会議会員の選出に係る学術研究団体の登録申請認可について  
登録したとの報告を2002年9月3日付けで受け取った。  
関連研究連絡委員会名：語学・文学。  
理事長より、以下に挙げる「今後に向けての課題」が提案され、引き続き審議することとした。
  - 1) 再登録時の記載すべき事項の把握、予算・決算などのフォームの統一。
  - 2) 役員 の定義を明確にする。
  - 3) 科研費の申請に対応できる体制作り。
 3年後の再申請時にも役員の研究業績の提出が必要となるが、「役員」に理事全員を入れると大人数になり書類のとりまとめが難しいので、全国を幾つかのブロックに分けブロック代表を「役員」とする案を次回提案したい。
4. 日本中国語学会のホームページについて  
学術研究団体として認可されたことにより国立情報学研究所のサーバーの使用が可能になったので2003年4月には試行的に学会HPを立ち上げる。
5. 略称を日本中国語学会と名乗る営利団体について。  
Web上に略称を『日本中国語学会』と称する営利団体がホームページを開設しており、アクセス回数も異常に多く、公刊物でもこの団体を本学会と混同するなど、すでに混乱を招いている。理事長名で2度抗議したが対応はない。2003年4月に開設予定の学会HPに本学会とは無関係であることを明記する。また会員各位からの情報提供及び当団体に対する抗議のメールを要請したい。
6. 中国語ソフトアカデミズム検討委員会報告  
報告書として『日本の中国語教育—その現状と課題—』（好文出版、2002年3月）を刊行、またパソコン利用の中国語教育と研究をテーマとした「電腦中国語フォーラム」を開催。会計赤字分87,669円を学会事務局が全額補填。
7. 支部例会報告（『中国語学』249号彙報参照）
8. 学会奨励賞：関光世氏「“V給”文の意味特徴に関する考察」

## 審議事項

- 1～6までの審議事項が承認された。
1. 理事長及び常任理事選出方法に関する内規の一部改正（8名連記を4名連記とする）。
  2. 『中国語学』編集委員・査読委員選出委嘱に関する内規の一部改正。
  3. 編集局経費  
投稿論文の増加、奨励賞の審査など負担が増大しているの、編集委員長経費として年間あらたに10万円を計上する。
  4. 2001年度会計決算の件（資料1参照）。
  5. 2002年度補正予算案の件（資料2参照）。  
旅費の増額は、編集委員会出席にあたって遠方の編集委員は前宿を余儀なくされているので前宿旅費を支給することなどによる。事務費の増額は会員増に伴うもの。
  6. 2003年度会計予算案の件（資料3参照）。  
編集局経費10万円を新規計上（審議事項3を参照）。
  7. 次期大会開催校の件（早稲田大学 2003年10月25、26日を予定）。
  8. その他の事項  
名誉会員推挙（2003年4月より） 伊藤漱平氏・戸川芳郎氏・平山久雄氏

■ 寄贈 2002年10月 現代中国研究所『批判與建設』1号

(資料1) 日本中国語学会 2001 年度会計予算 (2001 年 4 月～2002 年 3 月)

2002 年 10 月 26 日総会承認

< 収入 >		< 支出 >	
前年度繰越金	7,313,585	会誌印刷費	2,528,505
(定期預金累計利息約 1,284,572 円を含む)		大会助成費	650,000
通常会員会費収入	5,564,798	支部活動助成費	356,841
賛助会員会費収入	627,300	通信費	409,940
『中国語学』売上金	172,280	事務費	642,328
印税	65,000	事務局費	250,000
預金等利息 (02/4～03/3)	184,312	旅費交通費	443,000
計	13,927,275	会議費等雑費	67,599
		学会奨励費	100,000
		次年度繰越金	8,479,062
		計	13,927,275

(資料2) 日本中国語学会 2002 年度会計補正予算 (2002 年 4 月～2003 年 3 月)

2002 年 10 月 26 日総会承認

< 収入 >		< 支出 >	
前年度繰越金	8,479,062	会誌印刷費	2,800,000
(定期預金累計利息 1,284,572 円を含む)		名簿印刷費	400,000
通常会員会費収入	4,500,000	大会助成費	700,000
賛助会員会費収入	570,000	支部活動助成費	400,000
『中国語学』売上金	562,500	通信費	550,000
印税	50,000	事務費	750,000
預金等利息 (02/4～03/3)	180,000	事務局費	600,000
計	14,341,562	旅費交通費	700,000
		会議費等雑費	100,000
		学会奨励費	100,000
		電腦アカデミズム補助費	87,669
		『日本の中国語教育』購入費	50,000
		予備費	7,103,893
		計	14,341,562

(資料3) 日本中国語学会 2003 年度会計予算 (2003 年 4 月～2004 年 3 月)

2002 年 10 月 26 日総会承認

< 収入 >		< 支出 >	
前年度繰越金	7,103,893	会誌印刷費	2,800,000
(定期預金累計利息約 1,100,000 円を含む)		大会助成費	700,000
通常会員会費収入	4,500,000	支部活動助成費	400,000
賛助会員会費収入	570,000	通信費	550,000
『中国語学』売上金	500,000	事務費	750,000
預金等利息 (03/4～04/3)	180,000	事務局費	600,000
計	12,853,893	編集局費	100,000
		旅費交通費	550,000
		会議費等雑費	100,000
		学会奨励費	100,000
		予備費	6,203,893
		計	12,853,893

## ■ 事務局より

- ・可能ならば来年度学術定期刊行物の出版助成の申請を考えております。申請書の記載事項に「海外学術雑誌における引用件数」および「代表的掲載論文の主要雑誌における引用状況」の欄があります。『中国語学』所収の論文が該当する場合、引用論文名(年・号)とその掲載雑誌を事務局までお知らせください。
- ・学会費納入に関するクレーム・トラブルが増えております。学会費納入を証明できる領収書や郵便振込みの際の受領書の保管をお願いします。また学会費を校費で支払う場合、かなり煩瑣な手続きの必要なものがあり、事務局の負担増となっております。煩瑣な手続きが必要な場合、可能な限り自費支払いをお願いします。
- ・中国語ソフトアカデミズム検討委員会の報告書『日本の中国語教育—その現状と課題—』が好文出版のご好意で刊行されております。残部がかなりあるようです。会員各位の研究室や図書館でのご購入をお願いします。

## ■ 正誤表

『中国語学』249号に以下記載漏れ・誤記がありました。お詫びして訂正いたします。

- ・彙報 p.324 関東支部例会に次の例会の記載がありませんでした。

5月例会(2002年5月25日(土) 於明治大学)

- (1) 東京工科大学Jピンイン研究プロジェクト

代表者 陳淑梅

中国語音節の仮名表記法 — Jピンインに関する検討—

- (2) 守屋宏則(明治大学)

日中辞典 — 訳語と例文をめぐって—

- ・また、249号の編集委員会の委員名に誤記がありました。正しくは次の通りです。  
編集委員長：佐藤進 編集委員：荒川清秀 遠藤光暁 佐藤晴彦 中川正之  
次期の編集委員会は次の通りです。  
編集委員長：荒川清秀 編集委員：遠藤光暁 佐藤進 杉村博文 古屋昭弘

### 会費未納入の方へ — 会費納入のお願い —

振替用紙を同封しております方は、会費(年5,000円)を至急ご入金くださるようお願いいたします。なお、これまでの会費を未納の方は振替用紙に合計金額を記載してありますので、一括してご入金くださいますようお願いいたします。また、記載された未納入金額が20,000円となっております方は、今年度ご入金いただけませんと会則「会費納入に関する内規」に基づき除籍となりますのでご注意ください。

郵便振替 加入者名：日本中国語学会

口座番号：00120-2-536256

学会事務局 〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1  
神戸大学 国際文化学部内  
TEL/FAX 078-803-7402(直通)